

情報ひろば



行方市の人口

総数 36,894人 (-58)
 男 18,333人 (-26)
 女 18,561人 (-32)
 世帯数 12,736世帯 (-25)
 平成27年8月1日現在
 ※外国人住民を含む
 ()は前月との比較

行方市民憲章

やさしい自然
 かがやく人
 わたしたちがつくる
 魅力あるまち、行方市



行方市のうた

(1番)
 われを育む 里山は
 大地の恵に 満ちあふる
 朝日 湖に輝き
 夕日 山の端そめる
 ああ ふるさと わが希望

(2番)
 祭りばやしに 心おどり
 風土記の里に 童の声はすむ
 谷津田 風にそよぎ 稲穂
 黄金に輝く ああ ふるさと
 ああ わが 安らぎ

(3番)
 古のなごり 受けつぎし
 大空 はばたく 子どもの
 夢を 育む 学舎は 拡く心の
 礎ぞ ああ ふるさと
 ああ わが未来 あー

市役所 開庁時間

平日(月曜～金曜)
 午前8時30分～午後5時15分
 ※休日窓口業務については、
 お問い合わせください。

平成27年度

鹿行地方歴史講演会

鹿行地区で文化財保護活動をして
 いる鹿行文化財保護連絡協議会
 と鹿行文化研究会が主催で講演会
 を開催します。

■演題 中世前期の常陸平氏と鹿
 島社領 鹿島・行方両氏の族生

■内容 12世紀末、常陸平氏と称
 された武士たちが鹿島・行方両郡
 により独自の勢力を成立、展開し
 たその経緯について

■講師 大田原市那須与一伝承館
 学芸員 前川辰徳先生

■日時 9月20日(日) 午後2時～
 ■会場 市文化会館(山田2175)
 ■対象 鹿行地域に在住・在勤・
 在学している方

■主催 鹿行文化財保護連絡協議
 会・鹿行地方文化研究会
 ※自由席・入場無料・定員542名

■問い合わせ
 生涯学習課文化振興グループ
 ☎0291・35・2908

文化財保護指導員による 文化財の巡視を行います

市内には、国・県・市指定の文
 化財や遺跡などが数多く所在してい
 ます。これらの貴重な文化財を保護
 するため、文化財保護指導員に
 よる文化財巡視を年2回実施してい
 ます。

畑や山野に立ち入る場合もあり
 ますので、ご理解ご協力をお願いし
 ます。

■問い合わせ
 生涯学習課文化振興グループ
 ☎0291・35・2908



文化財愛護
シンボルマーク



いばらき就職支援セン ター出張相談について

いばらき就職支援センターでは、
 県内を中心とした求人情報の提供
 および就職紹介や転職に役立つ就
 活セミナーを開催しています。
 また、出張相談も実施していま
 すので、ぜひご利用ください。

■出張相談会場

- ▼北浦公民館 講義室3
(山田2175)
 - ▼毎月第2金曜日午前10時～午後3時
 - ▼麻生公民館 第一会議室
(麻生1221)
 - ▼毎月第3金曜日午前10時～午後3時
 - ▼玉造公民館 相談室
(玉造乙1179)
 - ▼毎月第4金曜日午前10時～午後3時
- ※祝祭日、年末年始の相談は行い
 ません。

■問い合わせ

いばらき就職支援センター(鹿行地区就職支援センター)
 ☎0291・34・2061 FAX0291・34・2062

平成27年度第3回 元氣いば らき就職面接会(鹿嶋会場)

学生を除く若者や離職され求職
 中の方を対象に、合同就職面接会
 を開催します。
 複数の企業の人事担当者と直接
 お会いできるチャンスですので、
 ぜひご参加ください。
 ※履歴書を複数持参の上、ご参加
 ください。

■日時

9月15日(火) 午後1時30分～午
 後3時30分(受付:午後1時～)

■会場

鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中
 325・1)

■対象求職者

学生を除く若者や離職された求職
 中の方

■参加事業所

県内に本社または就業場所がある
 事業所 約20社

神栖法律事務所
 茨城県弁護士会所属
 弁護士 安重洋介(あんじゅう ようすけ)
 〒314-0143
 神栖市神栖1-4-10セントラルビル103号
 ☎0299-95-9222
 ☎0299-95-9229
 http://www.kamisu-law.com/
 ご相談は平日AM9時から18時まで受付しています。

スマートフォンをお持ちの方は、
 2次元コードから行方市公式ホー
 ムページをご覧ください。

行方市公式ホームページ
 閲覧用2次元コード

本市のまちづくりに協力していただいている方・団体等に、話題を提供いただき、様々な『男女共同参画』について、コラムを連載いたします。市民の皆様の声もお寄せください。ご意見をお待ちしております。

— 進路選択・職域拡大 —

なめがた地域総合病院 看護主任 岩堀 恭宏

救急外来や人体をテーマにしたテレビ等を見るうちに、命に携わる職業に興味を持つようになりました。医療関連の仕事をする父の勧めもあり、高校生の進路を決める時に看護師の道を選びました。当時はまだ「看護士」と呼ばれ、1学年50人定員の看護学校に男子学生はたった3名でした。男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法が整備され、「看護婦」「看護士」の呼称は「看護師」に統一されました。当院も開院時には3名だった男性看護師が、現在では14名に増え、社会的にも認知度は高くなりました。

私は主に手術室と救急外来の仕事をしています。手術室の仕事は、テレビで見るように医師に器械を渡す直接介助、手術や麻酔をサポートする間接介助に大別されます。しかし実は、それだけでは手術はできません。実際には執刀医、介助医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士など多職種が必要です。1つの手術のために、職種の違う6～7人が一丸となり力を注いでいることは案外知られていないのではないのでしょうか。その仲間と良い仕事をし、無事に終えた時の達成感が私の仕事のモチベーションになっていると思います。

近年では専門分野に特化した認定看護師も増えており、看護師のキャリアアップや専門性は今後も拡大していくでしょう。私もDMAT（災害派遣医療チーム）の資格を取り、東日本大震災時は任務に携わりました。また私から見た看護師は女性が多い職場のためか、出産・育児等のブランクから復職するための研修やサポートも充実し、生涯使える国家資格だと感じます。

勤務は夜勤や長時間の手術、緊急手術の呼び出しもあるので、オフ（休日）を楽しむことが大切です。オフは家族や友人と出かけたり、キャンプやバーベキューなどをしてリフレッシュしています。趣味のギターでは全日本コンクールで優勝し、今はライブ等に出演するのが楽しみです。オフの時間を楽しむことで、オン（仕事）もうまくいくというのが私の持論で、その逆もまた然りです。

社会には医療職以外にも素晴らしい仕事はたくさんありますが、「人のために人と働く仕事」を進路の選択肢として視野に入れてみてはどうでしょうか？



なめがた地域総合病院のDMAT（災害派遣医療チーム）



オフ（休日）を楽しむことで、オン（仕事）もうまくいくと思います